

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

総社市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

岡山県総社市

3 地域再生計画の区域

岡山県総社市の全域

4 地域再生計画の目標

総社市は、岡山県の南西部に位置し、瀬戸内海特有の温暖少雨の恵まれた気候である。また、東部は岡山市、南部は倉敷市の県下2大都市に隣接し、交通の結節点等の地理的、自然的特性を活かし、製造業の工場が多く立地している。また、総社市独自の福祉を重視した施策に加え、子育てしやすい環境の充実を図った結果、社会増が自然減を上回り、2011年以降、人口が増加し続ける好循環を生み出している（2011年 67,306人→2015年 67,820人）。しかしながら、市街地周辺部では人口減少が進み、非婚化・晩産化等を理由に2005年以降、自然減が続いている。このような状況が続けば、将来的に、他の地方都市と同様、人口減少が想定され（国立社会保障・人口問題研究所によると、国勢調査の人口で2040年には57,712人になると推計）、地域コミュニティの持続が困難となり、また地方経済の破綻に繋がる等、深刻な状態に陥ることが懸念される。

上記の課題に対応するため、引続き、総社市で実施している健康寿命に関する事業やいきいき百歳体操の普及啓発など高齢者が元気に過ごせる取組を進めるとともに、自らの将来を展望し、結婚したいという若年層に向けた婚活イベント、セミナーやライフプランを設計する機会の提供など、結婚・出産・子育てができる環境整備に努め、出生率の向上を図っていく。あわせて、若い世代の女性が総社市で働き、結婚し、子育てができるよう、雇用機会の確保や安心して子育てができる環境を整備していく。また、総社市で生まれ育った若者が学べる環境を整

備することや学んで身につけた能力を発揮できる働く場を市内に創出することにより、人口流出を防ぐとともに、総社市に設置されている岡山県立大学の学生が、学生としての期間だけでなく、大学卒業後も引き続き総社市に住み続けてくれるように環境整備を行う。加えて、子育て世帯にスポットをあてて、地域の特色を生かした教育を行う特区の認定や助成金の整備、また住民とのつながりを持って、安心して移住が行えるよう移住コーディネーター等の配置と空き家の利活用など人口減少が進んでいる地域を活性化させていくことにも取り組む。これらの取組をとおして、「岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～」を実現する。

なお、これらに取り組むにあたっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げる。

- ・基本目標 1 だれもが安心して住みたくなる総社
- ・基本目標 2 だれもが安心して働きたくなる総社
- ・基本目標 3 だれもが安心して学びたくなる総社
- ・基本目標 4 だれもが安心して訪れたくなる総社
- ・基本目標 5 だれもが安心して集いたくなる総社

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2025年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	転入超過数	761人	780人	基本目標 1
イ	総所得金額	862億円	975億円	基本目標 2
ウ	年少人口（0～14歳）数	9,683人	10,000人	基本目標 3
エ	滞在人口	(平日) 49,545人 (休日) 50,435人	(平日) 50,000人 (休日) 53,000人	基本目標 4
オ	総社市に愛着を感じている 人の割合	73.5%	85%	基本目標 5

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～事業

ア だれもが安心して住みたくなる総社事業

イ だれもが安心して働きたくなる総社事業

ウ だれもが安心して学びたくなる総社事業

エ だれもが安心して訪れたくなる総社事業

オ だれもが安心して集いたくなる総社事業

② 事業の内容

ア だれもが安心して住みたくなる総社事業

結婚・妊娠・出産・子育てを総合的に支援するとともに、切れ目のない介護・医療体制等の確立による市民の安全・安心を確保する取組を進める。総社に住んでいるだれもが安全・安心で快適な生活が送れ、さらに多くの人に移り住んでくる施策を充実・強化していく。

【子育て，社会保障（高齢者・障がい者など），住宅・生活基盤，移住・定住促進，防災・消防】

【具体的な事業】

・大規模災害被災地支援事業

・子育て王国のまちづくり事業 等

イ だれもが安心して働きたくなる総社事業

企業誘致や新規分野での雇用の場の確保により，雇用の創出を図る。
また，若者や女性，高齢者，障がい者，外国人など働くことを希望するすべての人が様々な職業で，夢をもって働くことができるよう雇用環境の整備や働きやすい職場づくりの推進に取り組む。

【雇用，農林業，商工業・物流】

【具体的な事業】

- ・一人ひとりの就労・生活支援事業
- ・中小企業サポート事業 等

ウ だれもが安心して学びたくなる総社事業

子どもから大人まで生涯学び，人生をより豊かに過ごせる環境づくりを目指す。幼少期から心の教育を重視した，魅力ある学校づくりを進める。また，困難を抱える子どもたちを支援し，だれもが行きたくなる学校教育環境を整備するとともに，教育特区など特色ある教育に取り組む。また，家庭の中で学び成長していく過程を支援し，地域からの見守りなど家庭と地域で子どもの学びを支える。自然や歴史遺産にふれあい，郷土愛を育むとともに，市民が多彩な文化・芸術。スポーツに親しめる環境づくりを行う。

【学校・幼児教育，家庭教育，スポーツ・文化・生涯学習】

【具体的な事業】

- ・だれもが行きたくなる学校づくり事業
- ・芸術や文化活動に親しむ環境づくり事業 等

エ だれもが安心して訪れたくなる総社事業

自然環境資源や歴史文化遺産を活用し，総社ならではの観光振興に取り組む。そのため，観光用の２次交通の整備や，伝統文化を継承しながらも新たな文化を創造し，多くの人々が訪れたくなる街の実現を図る。また，岡山県立大学周辺を総社市の東の玄関口と位置づけ，大学を中心とした学園都市として整備する。さらに，ＪＲ吉備線（桃太郎線）のＬＲＴ化の検討や新規の企業誘致を実現するなど，新たな地域拠点の形成に向け取り組む。

【観光，都市・社会基盤，自然・環境】

【具体的な事業】

- ・観光客・訪問客の増加事業
- ・そうじゃグランドデザイン計画 等

オ だれもが安心して集いたくなる総社

人口減少や少子高齢化社会の中で、周辺都市や関係機関等とも連携を深め、地域の総合力を高め、様々なパートナーと協働でまちづくりを行う。そして、地域住民自らが考え、みんなで支えあい、地域課題を解決できるように、市民みんなが受身ではなく、自発的に集い、何かを行動に移していけるまちづくりを目指す。さらには、市民みんなの協力や努力に応じた料金引き下げなど、柔軟でやりがいのある仕組みづくりを考え、より郷土に愛着をもってらせるよう取組みを進める。

【市民参加，広域連携，市役所】

【具体的な事業】

- ・女性，外国人，L G B T等の方の活躍できる社会の実現事業
- ・ファシリティマネジメント実施事業 等

※なお、詳細は第2次総社市総合計画・そうじゃ総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4の数値目標に同じ。

④ 寄附の金額の目安

9,200,000 千円（2020年度～2025年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C Aサイクル）

毎年度 10 月に外部有識者（総社市総合計画審議会）による効果検証を行い、必要に応じて見直しを行う。検証後速やかに総社市公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2020 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで

5－3 その他の事業

5－3－1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5－3－2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

2020 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで